

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【伊都振興局】 重点プロジェクト〔新品种導入と担い手の育成による柿産地の活性化〕
～農業技術講習会果樹コース(かきのせん定講習会)の開催～

令和4年12月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 和海地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催	
2. 「匠の技 伝道師」による第2回ミニトマト栽培研修会を開催	
II 那賀振興局	2-3
1. 黒大豆収穫イベントを開催 ～紀の川市鞆渕地区～	
2. 岩出市立岩出中学校で郷土食体験を実施	
3. 土壌肥料分析の比較検証研修会～那賀地方有機農業推進協議会～	
III 伊都振興局	4-5
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース(かきのせん定講習会)の開催～	
2. 農業技術講習会野菜コース(マメ科野菜と軟弱野菜の栽培管理)の開催	
3. 小学校でみそづくり伝承活動を実施	
IV 有田振興局	6
1. 「クリスマスみかんツリー」配布による有田みかんPR	
V 日高振興局	7-8
1. みなべ梅郷クラブが視察研修会を開催	
2. ゆら早生の省力・安定生産のためのジベレリン散布実演会を開催	
VI 西牟婁振興局	9-12
1. 稲成いちご研究会が栽培施設の巡回調査及び意見交換会を実施	
2. 西牟婁地方4Hクラブが県試験研究機関にて研修を実施	
3. 中辺路町生活研究グループがジビエの出前授業を実施	
4. 田辺生活研究グループがせん定枝を使った門梅づくりを体験	
VII 東牟婁振興局	13
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～いちご定植ほ場現地研修(第3回イチゴセミナー)を実施～	
2. くろしおナス組合が栽培出荷検討会(反省会)を実施	
VIII 農林大学校	14-15
1. かきで3年連続! トマトで2年連続!! GLOBAL G. A. P. 認証を取得	
2. プロジェクト研究発表会を開催	

I 海草振興局

1. 和海地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

12月8日、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：田端和美氏）は、会員15名が参加のもと海南市農村婦人の家において、地域農産物の利用促進を目的に地域食材を活用したおもてなし料理の研修会を開催し、会員15名が参加した。野菜ソムリエであり、ベジフル料理研究家の井上宣子氏を講師に招き、「しらすと梅干しの簡単炊き込みご飯」や「白菜のミルフィーユ蒸し」など5品とかまぼこの飾り切りの調理実習を行った。

井上氏から調理のポイントなどの指導を受け、地域食材を使った冬のおもてなし料理を作った。グループ員からは「野菜たっぷりのメニューを知ることができてよかった」、「正月に家でもチャレンジしたい」といった感想があった。

当課では、今後も生活研究グループの活動を支援していく。



調理実習



完成した料理

2. 「匠の技 伝道師」による第2回ミニトマト栽培研修会を開催

12月9日、海南市高津にある「匠の技 伝道師」西居正憲氏のミニトマト栽培ハウスにおいて、今年度2回目となるミニトマト栽培研修会を開催し17名が参加した。

前回9月9日の研修会では、定植時から収穫期までの栽培ポイントについて研修し、今回は、収穫期における栽培管理について研修を行った。西居氏のハウス加温栽培では、10月中旬から6月末までが収穫期間となり、この間の草勢維持や果実品質向上のための水管理等について説明があった。また、毎日、植物体を観察することで、植物の状態変化を把握でき、病気の早期発見にも繋がるとの話もあった。

次回は、収穫のピークで食味も一番良い4月下旬に開催を計画しており、当課では今後も匠の技術を次世代に繋げていく活動を行っていく。



ミニトマト栽培研修会

Ⅱ 那賀振興局

1. 黒大豆収穫イベントを開催 ～紀の川市鞆渕地区～

12月3日、ともぶち地域活性化実行委員会（会長：井中啓泰氏）は、紀の川市鞆渕地区で黒大豆収穫イベントを開催し、県内外から20組（51名）の参加があった。

開会にあたりJA紀の里鞆渕事業所の田中主任から「収穫した黒大豆の中には不揃いや虫食いが混ざっていると思う。皆さんがお店で購入する規格品は農家が一粒ずつ選果したもの。この収穫体験を通じて農家の苦勞を知ってもらいたい」との言葉があった。

参加者は実行委員会メンバーのサポートを受けながら専用の収穫バサミで収穫体験を楽しんでいた。小学生の参加者は悪戦苦闘しながら株を刈り取り「収穫面白いけど、腕が疲れた～」と話していた。

その後、参加者は実行委員会が用意した焚火で暖を取りながら、株から莢を摘み取り持ち帰った。高齢の参加者は「今日収穫した黒大豆でおせちの黒豆煮を作るのが楽しみ」と話していた。

農業水産振興課では、引き続きともぶち地域活性化実行委員会の活動を支援していく。



黒大豆ほ場



黒大豆収穫の様子

2. 岩出市立岩出中学校で郷土食体験を実施

12月15～16日、当課は、岩出市立岩出中学校2年生6クラス224名を対象とした郷土食体験を実施した。

この取り組みは、生徒達が地域農業や郷土料理について理解を深めることを目的としており、地域に伝わる「お雑煮」と岩出市特産のなばなを使った「ごま和え」の調理実習を行った。

当日は川村普及指導員と岩出市生活研究グループ協議会（会長：田中典子氏）の役員が講師を務め、2日間で延べ29名の会員が指導に参加した。

最初に講師から、実習に使う材料のうち、餅・みそ・だいこん・にんじん・さといも・なばなは、グループで加工または会員が栽培した物であること、また、お雑煮に入れる野菜は「家庭円満に、一年を通じて何事も丸く収まりますように」という意味合いを込めて、全て丸く切るといった説明があった。

生徒は会員の指導を受けながら調理を行ったが、「ごまを炒る」、「ごまを擦る」、「味噌をとく」という言葉の意味が分からない生徒や、家ではお雑煮を食べないという生

徒も見受けられ、指導した会員達は食育活動の大切さを再認識していた。

試食をした生徒からは「ごまを擦るのが難しかった」「お餅が柔らかくて美味しかった」といった感想が聞かれた。

当課では、今後も生活研究グループや農家と連携し食育活動を推進していく。



調理実習の様子



(左) なばなのごま和え (右) お雑煮

3. 土壌肥料分析の比較検証研修会～那賀地方有機農業推進協議会～

12月19日、那賀地方有機農業推進協議会（会長：関弘和氏）は、有機農業に興味を持つ会員を含めた農業者9名に対して、ブロッコリーにおける施肥研修を行った。

同協議会副会長の井上達也氏が講師を務め、異なる条件で施肥した場合の土壌への影響について分析結果を元に比較、解説を行った。

出席者は「冬の間効果がある有機質肥料はどのようなものがあるか」、「分析結果で前回の数値より増えている有効リン酸の値はどう判断するか」等の質問があり、井上氏は「基本この時期は菌の動きが鈍いので有機質肥料の効果は薄い。ぼかし肥料や完熟肥料ならまだ効果はある。大事なものは追肥する時期」、「分析する土は同じところから取っているが多少のずれは出る。かなり極端な数値の違いが見られたら対処するという考えが良い」と、丁寧に回答していた。

講義後、参加者はブロッコリーほ場を見学、それぞれの異なる施肥方法による生育状況の違いを確認していた。

今後は、収穫後の土壌を分析し、結果を比較する研修会を行う予定。

当課では、会員らによるグループの自主的な取組を今後も支援していく。



研修会講義の様子



ブロッコリーの生育状況確認

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース(かきのせん定講習会)の開催～

12月14日、農業水産振興課では、就農希望者や基礎技術を習得したい方の技術・経営力向上を図るため、かきの栽培技術をテーマにした第5回講習会（果樹コース 全5回）を開催し、16名が受講した。

はじめに、森口普及指導員から、整枝・せん定、土壌改良、越冬害虫の防除及び農作業安全について講義を行った。また、間佐古普及指導員から、かきの病害虫について講義を行った。その後、九度山町の藤田普及協力委員のかき園に移動し、「刀根早生」のせん定の実演とポイントの説明を行った。翌春の新梢伸長を想定した枝の配置や環状剥皮を行う予定として残してもよい枝の選び方等について、受講者と普及指導員が意見交換しながら実施した。

当課では、今後にかきの基礎技術を学びたい生産者に対し、研修を通じて技術指導を行っていく。



講義の様子



せん定の現地研修の様子

2. 農業技術講習会野菜コース（マメ科野菜と軟弱野菜の栽培管理）の開催

12月20日、当課では農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的に第3回農業技術講習会（野菜コース 全3回）を開催し、10名が受講した。

今回は、マメ科野菜と軟弱野菜の栽培について、当課の久保普及指導員から、えんどうまめ、いんげんまめ、そらまめ、ほうれんそう、しゅんぎく等を中心に各品目別の特徴、栽培管理、主要病害虫防除等のポイントについて講義を行った。

受講者からは「えだまめ等他の野菜の栽培



講義の様子

方法も教えてほしい」などの意見があった。

当課では、今後も講習会を開催し農業の担い手育成と栽培技術の向上を図っていく。

3. 小学校でみそづくり伝承活動を実施

当課では、昔から地域で作られている米みそづくりを後世に伝承し、地産地消教育につなげるため、小学校でみそづくり体験を実施している。

今回は、12月1日、2日に橋本市立あやの台小学校3、4年生105名を対象に実施した。

橋本市生活研究グループ連絡協議会員が講師となり、1日目は、みその種類やみそづくりに必要な材料、手順などを説明したのち、会員が作業している様子を見学した。2日目は、実際に児童が大豆と米を混ぜ合わせ仕込みを行い、みその保存方法などについて説明した。

児童からは、「大豆を煮ているときいいにおいがする」、「みそをお団子のかたちにするのが楽しい」、「来年みそを食べるのが楽しみ」などの感想があがった。

当課では今後も生活研究グループと連携して小学生を対象としたみそづくりや一般消費者への伝承活動等の食育活動に取り組んでいく。



大豆をミンチする作業を見学する児童達



団子にしたみそを投げ入れる様子

IV 有田振興局

1. 「クリスマスみかんツリー」配布による有田みかんPR

有田地域農業振興協議会では、12月8～15日に有田地域の駅、金融機関、市役所、町役場及びその他集客施設82カ所に「クリスマスみかんツリー」の配布を行った。

この取組は、カナダにはクリスマスにみかんを食べる「クリスマスオレンジ」という慣習があり、みかんはクリスマスを訪れを知らせる聖なる果実となっていることにちなみ、平成27年度から配布を行っている。

日本一のみかん産地らしいクリスマスを演出するとともに、若者やご家庭でのみかんの消費拡大を期待しており、「クリスマスみかんツリー」を飾ることで平穏な日常の訪れを願うとともに、ほっとするひとときを提供したいという思いで取り組んでいる。



クリスマスみかんツリー



クリスマスみかんツリーの配布

V 日高振興局

1. みなべ梅郷クラブが視察研修会を開催

みなべ梅郷クラブ（会長：前山拓海氏）は、県外の農業経営体における先進的な取組について学ぶため、12月19日、20日に岡山県で視察研修会を開催した。県外における研修会の開催は3年ぶりで、クラブ員5名と農業水産振興課職員計6名が参加した。

研修会では、19日にやまこうファーム株式会社（代表：山本耕祐氏）を訪問し、同社の国産コーヒー栽培及び観光農園経営の取組を視察した。

続いて20日には、おかやまおひさまファーム株式会社を訪問し、代表の斎藤千恵子氏の案内で、国産バナナ有機栽培及び農福連携の取組について説明を受けた。

クラブ員たちは、2社それぞれの取組において栽培品目の選定理由や栽培・経営上苦労した点などを熱心に質問し、うめの農業経営における取組を紹介しながら情報交換を行った。終了後は「3年ぶりに県外の先進地を訪問できてよかった。自身の農業経営でも学んだことを活かし、視野を広く持って新しいことに挑戦したい」と語った。

当課では、今後も研修会の開催、プロジェクト活動等、クラブ員の活動を幅広くサポートしていく。



研修会（上段：やまこうファーム（株）、下段：おかやまおひさまファーム（株））

2. ゆら早生の省力・安定生産のためのジベレリン散布実演会を開催

12月21日、当課と由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）は、うんしゅうみかん（ゆら早生）における、摘果作業の軽減と安定生産を両立可能な技術である、冬季のジベレリン散布の普及を図るため由良町内で実演会を開催し、農業者7名が参加した。

農薬メーカーやJA紀州の営農指導員とも連携し、ジベレリンの散布量と散布方法、剤の特性、効果などを確認しながら散布実演するなど、みかん生産者が理解を深めて実践できるように工夫した。参加者が見守る中、散布を行うことで「これくらいの量を散布すればよいのか」や「実演を見て方法が分かった」などの声があった。今回の実演会を行った展示ほ場では無処理区を含めて、ジベレリンへの混用剤を変えた5区で試験散布を行っている。展示ほ場は農家の方が見やすいところに設けており、参加者は農作業の合間に様子を確認したいと口々に話していた。来年度には、試験成果の発表も含めて研修会を行う予定。

当課では、今後も由良町農業士会、JA、農薬メーカーなどと協力して、当技術の普及を図っていく。



実演会（上段：参加者への説明、下段：散布実演）

VI 西牟婁振興局

1. 稲成いちご研究会が栽培施設の巡回調査及び意見交換会を実施

12月1日、稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）が、栽培施設の巡回及び意見交換会を実施し、会員8名、JA紀南職員2名、農業水産振興課 谷普及指導員の計11名が参加した。

はじめに、会員の栽培施設で生育状況を確認した後、JA中央営農経済センター会議室においてJA販売担当職員から、共同出荷における荷受け開始日や時間等について説明があり、谷普及指導員から炭酸ガス施用による収量、品質（糖度）、生育への影響についての実証試験概要及び今年度国の事業を活用し、会員の施設で実施しているアザミウマ類の天敵導入試験の概要について説明した。

会員からは「定植後11月末まで高温が続き、病害虫の被害が多かった」、「大阪市場でのシェアを広げ、3月以降の単価の下落を抑えるため、収穫当初から高品質なものを安定して出荷する必要がある」、「2月の収量が少なく、施設内環境の測定したところ、朝方の平均気温が低かったため、培地加温に加え、施設内の早朝加温を検討したい」等の意見があった。

当課では、今後ともJA紀南と連携し、同研究会の活動を支援していく。



会員による栽培施設巡回



意見交換会

2. 西牟婁地方4Hクラブが県試験研究機関にて研修を実施

12月7日、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：北川翔大氏）は、県の主要品目やクビアカツヤカミキリ及び土づくりに関する理解を深めるため、紀北地方の試験研究機関2カ所で研修を実施し、クラブ員6名と当課職員2名が出席した。

まず、果樹試験場かき・もも研究所で、有田主任研究員から品種特性やかきの脱渋方法、ももの連作障害対策技術について説明を受けた。増田副主査研究員からは、クビアカツヤカミキリの被害や対策について説明があり、クビアカツヤカミキリと間違

しやすいゴマダラカミキリやアリのフラスとの見分け方、幼虫が食入していると思われる切り株を用いた掘り取りの実演もあった。

次に、農業試験場において鈴木場長から、県が育成した辛くないししとう（ししわかまる）や比較的鳥獣害が少ないとされているにんにくなどについて、現在の試験概要の説明を受けた。橋本主査研究員からは、県内に分布する土壌の特徴、耕起が困難な樹園地での深耕方法など土づくりのポイントについて学んだ。うめのせん定枝チップの施用による効果や微生物資材の有効性などについての質問が相次ぎ、土壌診断結果を持ち込んだクラブ員はアドバイスをもらい、今後の改善点を明確にすることができた。その後、いちご及びトマトのハウスにて、湿度や養水分管理などの環境制御について説明を受けた。

コロナ禍で活動が制限される中、久しぶりに遠方での研修が実現し、実りあるものとなった。当課では、若手農業者の経営や栽培の参考となる研修の実施を引き続き支援していく。



クビアカツヤカミキリ（幼虫）の掘り取り実演



農業試験場概要の説明を受けるクラブ



トマトのハウス見学

3. 中辺路町生活研究グループがジビエの出前授業を実施

12月13日、中辺路町生活研究グループ（会長：森川敏子氏）の会員4名が講師となり、田辺市立中辺路中学校3年生11名を対象にジビエの振興と地産地消の推進を目的として、出前授業を実施した。この取組は令和元年から実施し、今回で4回目となる。

最初に、森川会長がイノシシ肉とシカ肉の特徴と調理方法の注意点について説明した後、4班に分かれて、「イノシシ肉の酢豚」、「シカ肉の佃煮」、「梅ご飯」、「大根の酢

の物」、「野菜スープ」の5品に挑戦した。シカ肉は、加熱すると硬くなるため、低温でじっくり2～3時間煮込むが、圧力鍋を使うと短縮できることなどを説明しながら、手際よく作業を進めた。

生徒からは、「調理するのは難しいと思ったけれど、作ってみたら楽しかった」、「ジビエ料理を初めて食べたがおいしかった」など感想があった。

当課では、今後も生活研究グループが実施する管内小中学校での出前授業を支援していく。



調理指導を受ける生徒



出来上がった料理

4. 田辺生活研究グループがせん定枝を使った門梅づくりを体験

田辺生活研究グループ連絡協議会（会長：船本秀代氏）は、郷土料理の伝承や農産物の加工、小学校への食育活動を行っており、毎年会員との交流を目的に研修会を実施している。

12月20日、上芳養農村環境改善センターで紀南地方を中心に活動している女性デザイナーユニット「kumanono..(クマノノ)」の井出宏美氏と濱田 幸氏を講師に招き、せん定枝を使った正月飾り「門梅」（かどうめ）づくりを体験した。

昨年11月の女性農業者セミナー講師からの「門梅」の紹介がきっかけで実施することとなり、会員10名が参加した。

井出氏は、身近にあるうめのせん定枝でオブジェを作れば「門松」の代わりになるのではないかと思い「門梅」を



講師(右)から作り方を教わる

考案、2017年にみなべ町で開催された梅サミット会場の玄関に特大サイズのを濱田氏と飾ったり、2人の地元であるみなべ町・田辺市を中心に門梅づくりワークショップを開催するなどPR活動を行っている。参加者は講師に教わりながら、真っすぐせん定枝を選んで長さ75cmに切り揃えた後、わら縄で中心を束ね、稲穂や松、南天、水引を飾り付けた。

参加者からは、「枝の長さを切り揃えたり、わら縄を巻いて束ねる作業が大変だった」、「思ったよりきれいにでき、松竹梅の梅をアピールする飾りとして周りの人にも教えたい」などの感想があった。

当課では、今後も田辺生活研究グループの研修会を支援していく。



完成した「門梅」

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】 ～いちご定植ほ場現地研修（第3回イチゴセミナー）を実施～

12月6日、那智勝浦町苺生産組合（会長：栗野稔近氏）は、いちご「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、定植ほ場現地研修を実施した。当日は、生産者、JAみくまのトレーニングファーム研修生その他、JAみくまの及び農業水産振興課併せて18名が出席し、各生産者のほ場を巡回した。

各ほ場では、生育や病害虫の発生状況などを確認した。今年は9月に曇雨天が続いたことや9月と11月の気温が平年より高かったことから、例年よりも開花が遅く、収穫時期が遅れた。

病害虫の発生状況については、炭そ病の発生が例年より多い傾向にあり、ほ場によってはハダニやうどんこ病が発生していたため、農薬の種類や散布時期について生産者らで情報交換が行われた。

当課では、関係機関と連携しながら同苺生産組合の活動を支援していく。



栽培状況の説明

2. くろしおナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施

12月13日、くろしおナス組合（組合長：松本安弘氏）は、太地町で栽培出荷検討会（反省会）を実施した。生産者その他、市場関係者、JAみくまの及び当課担当者併せて11名が参加した。

今年は、うどんこ病が発生し最後まで対策に苦労した生産者もいたが、全般的に病害虫の発生も少なかった上、台風による被害もなく、組合員全体の出荷量は前年より1000kg程多かった。

来年度も、土壌病害に強い台木の使用を基本に、夏場の高温対策や病害虫の早期防除に努めること等を話し合った。

当課では、関係機関と連携しながら同ナス組合の栽培技術向上に向けた取り組みを支援していく。



なすの栽培出荷検討会（反省会）

Ⅷ 農林大学校

1. かきで3年連続！トマトで2年連続！！GLOBAL G.A.P.認証を取得

12月8日、本校2年生へのGLOBAL G.A.P.認証証明書授与式を開催した。

農林大学校では、世界的な競争力を身につけた担い手を育成するため、生産工程管理の国際的な認証制度であるGLOBAL G.A.P.認証取得に向けたカリキュラムを令和2年度から本格的に開始し、取り組んできた。

令和2年度は、2年生全員でかきの認証取得に取り組み、令和3年度からは2年生野菜・花きコースの学生を中心にトマトの認証を、果樹コースを中心にかきの認証取得に取り組んできた。1年次の科目「GAP」で基礎を学び、2年次からは本校職員及び株式会社AGICによる「GAP演習」やプロジェクトを通じて学習を深め、GAPを実践してきた。

今年度は10月11日、12日に認証審査を受け、食品安全・環境保全・労働安全などの内容について200以上の項目の基準を満たしているかが確認され、その結果11月11日付けで認証を取得した。授与式では、校長から学生に証明書が授与され、「就農・就職してもGAPの学びを生かしてほしい」とのメッセージがあった。来年度GLOBAL G.A.P.認証取得に挑戦する1年生に対し2年生から引き継ぎとエールを送った。

当校では、引き続きトマトとかきの認証継続や輸出への取組を通じて学生の視野を広げ、世界基準の生産工程管理を実践できる人材育成に努めていく。



認証授与



書類審査を受ける学生

2. プロジェクト研究発表会を開催

12月14日、プロジェクト研究発表会を開催した。この発表会は学生が学科・コース別に農業経営や農業技術の改善などの課題を設定し、解決に向けた研究（プロジェクト研究）に取り組んだ結果を発表するものである。当日は、各学科・コース代表者から日頃の調査研究活動や自らの経営の成果、目標について4課題の発表があった。

審査の結果、最優秀賞には、果樹コースの「柿のGLOBAL G.A.Pの継続認証取得に挑戦」、優秀賞にはアグリビジネス学科の「農林大の農産物を使った加工品『農林大ミックスジャム』の商品開発」が選ばれた。

なお、果樹コースの課題は、来年1月に開催される東海・近畿ブロック農業大学校学生研究発表会及び意見発表会（兵庫県）で県代表として発表する予定である。



発表する学生

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489